

# ウガンダに「アフリカ版AMDA」

東アフリカ・ウガンダのウガンダ医師会（ムウイシゲ会長、約600人）が災害や戦争の際、先進諸国の援助に頼らずアフリカ人自身で医師団を派遣する「緊急援助のための多国籍医師団」結成を決めた。アジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市）を参考にした組織。内戦や飢饉で大量の難民が発生、欧米や日本の政府、非政府組織（NGO）から援助を受けることの続くアフリカだが、「援助を受ける側にもプライドがある」として結成合意にこぎつけた。この動きにAMDAは全面協力することにして

飢饉  
難民  
の  
戦、  
大量  
の内  
大

## 援助に頼らず

## 「地元住民で」

おり、今後、アフリカ各地に支部作りを急ぐ。

拠点をウガンダとした理由は、①90年代に入って政治が安定している②教育制度が充実、能力の高い医師が集めやすい——など。当初、同医師会内には趣旨には賛同するものの、「ウガンダでは医師数が十分ではないうえ、エイズ大量発生もあり緊急支援組織は難しい」と実現性に疑問の声が強かった。しかし、若い医師を中心に「いつまでも援助を受けるだけのアフリカではいけない」との意見が強まり昨年7月、医師団結成に合意した。【小倉 孝保】